

B型事業所 アクセプト
令和4年7月
地域協働活動報告

地域に根ざした事業所づくり

わくわくネットワークを通じた 地域の企業体との連携活動

- 宮崎市の就労系事業所の任意団体である、一般社団法人わくわくネットワーク。わくわくネットワークに地域の企業から依頼された受注作業はあるものの、納期がある事、作業の難しさ、単価が合わない等の理由から、各事業所の受け入れ状況は良いとは言えない。そのため、仕事はあっても引受先がないと事務局も悩んでいる。当事業所は、受け手がいない作業も積極的に取り入れ、地域企業の困りごとの解決を図っている。各企業と直接の連携を取り、指定された製品を期日までに仕上げる事を目標としており、利用者と共に納期を意識した「仕事」として取り組んでいる。また、作業単価については作業の細分化、利用者の配置、役割分担等の工夫を行い、できる限り効率化する意識を持ちながら取り組んでいる。受注作業における実績はわくわくネットワークの仕事のあっせん実績に直結している事もある。地域を支える存在としての、わくわくネットワークのポテンシャルをさらに引き出せるよう取り組んでいく。

地域企業連携

有限会社矢野青果 千切り大根袋詰め作業

地場産業の一つ、千切り大根の製造、販売を行う地域企業。

わくわくネットワーク受注。

製品の種類が多く、各製品に合わせた対応を行う必要がある。現在、複数の事業所で取り組みを行っているも、生産量に課題がある。また、製品に応じた対応が難しいとの理由で受注を敬遠されている面もある。当事業所としては、生産の安定化、生産量の確保、作業効率化を重点課題として取り組み、地域企業の課題解決の一翼を担っている。利用者にも、先述した「仕事」として取り組んでもらう事を意識してもらい、地域企業から安心して仕事を任せてもらえる存在となりえる事を知ってもらう。それが、就労に対する自信、信頼の確保、やりがいとして捉えられるように支援していく。就労希望のある、能力の高い利用者に関しては直接の雇用に向けてアプローチしていく。また、製品を卸してもらい、それを事業所で販売する活動も行う。相互連携を深め、お互いにメリットがある関係性を構築し、維持継続していく。

地域企業連携

株式会社Have fan Factory

サプリメント製品箱詰め等

宮崎市に製造工場を持つ、サプリメント製品製造・販売の企業。

わくわくネットワーク受注。

サプリメント製品の箱詰め作業、シール貼り作業を受注している。1回の受注量が数千個単位であり、さらに納期が短い点が敬遠されるポイントとなっている。社長も、障がい福祉への関心が高く、なるべく障がい福祉サービス事業所へ発注依頼をしたい思いを持っている。しかし、先述の通り、受注する内容の難易度が高く、応えられる事業所が少ない。当事業所は作業効率化、納期の厳守を最重点課題としており、地域企業の困りごとへ対応できる事業所として成果を上げる。利用者も、納期があることに対して責任感を持って「仕事」として取り組むことができている。地域企業に頼られる事業所であることが、利用者の自信、就労への意欲に強く作用していると感じている。

近隣住民の方たちへ

事業所前イベント販売会

近隣住民の方たちへ向けた、周知活動として事業所前での定期的な販売会の実施。

事業所の前で骨董品、アパレル製品、ハンドメイド製品、飲食物の販売を行う。

販売するハンドメイド製品の作成、骨董品等の洗浄、修繕を行う。イベント当日の売り場づくり。来場者に対する対応。イベント販売会として、物を売る活動を通じ、売れる喜び、客とのかかわりなどにやりがいを感じてもらうことで、就労することへの意欲を高める。恒久自治会・民生員・地域住民等とのつながりを生み出す。そして、地域の方々に事業所の存在を周知し、障がい福祉に関する地域の困りごとなどを相談できる存在となれるように取り組む。

また、生産活動につながるような地域の困りごとを掘り起こし、手伝えることで報酬が得られるように関係性を構築していく。

わくわくネットワーク・Super歩一歩・セルフ合同 福祉バザールわくわく市（宮交シティアポロの泉）

3団体合同で執り行われる、福祉バザールわくわく市。地域の方への、障がい福祉サービスの周知、工賃向上を目的に行われる。

県内事業所への声掛けのもと、参加者を募る。現在、コロナウイルス感染拡大の影響を受け、参加事業所の確保が難しい状態にある。

また、客足としても、従来の物ではないため、売り上げに期待することは難しい。しかし、参加する事をあきらめてしまえば、我々の存在をアピールする場を失ってしまう可能性がある。困難も多いが、できる限り参加する事を心がけていきたい。

地域企業連携（5月より新規受注）

株式会社シンセラティ

EC販売商品の梱包等

宮崎市に拠点を置くEC販売の地域企業。

わくわくネットワーク受注。

ECにおける業務、梱包作業を受注して取り組んでいる。当事業所もECに取り組んでいるため、そのノウハウ蓄積にも協力してもらっている。また、作業量の多さと物量から、やはり引き受け手の少ない作業である。作業を探し、提供するわくわくネットワークの存在意義、地域企業の後押しを念頭に、難しい作業ではあるが、請け負っている。

また、先述の通り、EC販売におけるアドバイス等が受けられる大きなメリットがある。双方が良いと思える関係性を構築、維持していけるよう取り組む。

これからの発展性も見込めるため、ともに成長できるように相互理解を深めていきたい。

令和4年7月度実績

○ 矢野青果千切り大根袋詰め作業

総売上：187,223円

今月は、虫の混入が問題となり、通常の作業だけではなく、検品作業、梱包材の入れ替えなど、イレギュラーな作業を行う場面もあった。しかし、受注量、生産量とも、目標である数量を上回る事が出来た。

虫の混入については、当事業所の責任においての事ではなく、一連のやり取りの中、どこで混入につながったのかを連携しながら確認していった。

数日で通常に戻る事が出来たため、大きな損失にはつながらなかったようである。

引き続き、地域企業、地場産業を縁の下で支えていく気持ちを持って取り組んでいく。

令和4年7月度実績のつづき

。事業所前イベント販売会

総売上：13,200円

今月は、7月16日1回の実施となった。非常に暑く、野外でのイベント実施に躊躇する状況であった。天候には恵まれたが、熱中症対策などしっかり考えなくては、野外においては難しいかもしれない。今回は、急遽事業所玄関先に商品を広げる形とした。

鶏の炭火焼きについては、引き続き好評で、近くにあるグループホーム、地域の方によく売れた。継続して実施していけるようにしたい。

令和4年7月度実績のつづき

。福祉バザールわくわく市

総売上：12,240円

7月28日、29日の2日間開催であった。当初8事業所参加予定であり、にぎやかなイベントとなるつもりでいたが、コロナウイルスの急激な再燃により、4事業所が出店を辞退してしまった。そのため、売り場を充実させる事が出来ず、さみしい開催状況になってしまった。客足も同じくで、感染拡大に対するやりきれない思いを抱いてしまう。

少ないながらも、我々の活動を伝え、商品を買っていただくことはできた。

今の感染状況が改善され、賑わいを見せられる日を夢見て、継続していきたい。

令和4年7月度実績のつづき

。シンセラティ梱包作業

総売上：7,471円

今月は、さらに依頼数が少なかったため、この数字となった。特に問題があったわけではない。取扱商品についても、こちらで気づいた点などを伝え、梱包方法などをしっかりと確認する事が出来た。

新商品である、ハサミのセットについて、どのような梱包にするのか具体的に打ち合わせを行った。新しい商品については、実物を最初に受け取る事となるため、綿密に話をしていく必要がある。送料が安くなるように梱包をしなければならない。

引き続き、お互いを支え合える環境を整えて、ともに発展できるよう臨みたい。

令和4年7月度実績のつづき

◦ Have fun Factory サプリメント製品の梱包作業等

総売上：157,416円

先月の続きで、製函作業となった。製函作業については、問題なく遂行できた。

しかし、シール貼り作業に指摘事項があった。そちらではシールの曲がり、二枚重ねで貼っている、毛髪が間に挟まっているなど、品質として問題があるとして、改善報告をあげることになった。急ぎの作業となっしまい、チェック体制に不足があるとの振り返りとなった。今後はこのような事にならないために、チェック体制をしっかりと整えて臨みたい。

地域企業のパートナーとして、これらの問題に対応し、姿勢を示していきたい。

各作業の様子

- 矢野青果千切り大根袋詰め作業

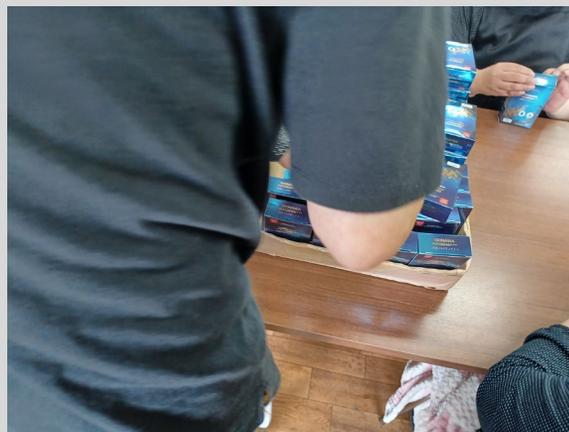


今月は30g、50gを中心とした、数を稼げる内容であったため、安定した収益となった。一部、虫の混入もあり、検品作業が数日続いた場面もあったが、しっかり連携をとることで、予期せぬ事態に対応する事が出来たのは収穫であったと思う。

各作業の様子

- Have fun Factory

サプリメント箱詰め作業等



先月の大口注文が半月ほど継続した。その後、注文はなかったが、十分な実績となった。引き続き、地域企業との連携を重視し、細かな打ち合わせのもと、お互いを支え合う関係性を維持していきたい。シール貼り作業では、失敗もあったが、作業体制の見直しする良いきっかけとなった。

各作業の様子

- 福祉バザールわくわく市



今月はセルフ、Super歩一步、わくわくネットワーク合同の福祉バザールわくわく市へ参加した。コロナの影響大きく、客足はさみしいものとなった。少しずつではあるが、販売できたことは大きい。継続していく事で、周知を図っていきたい。

各作業の様子

○ 事業所前イベント



今月は暑さもあって、事業所の玄関口を会場として設置した。地域の方もみえたが、売り上げは鶏の炭火焼きのみとなった。古物については、厳しい状況が続く。引き続き、方法を考えていきたい。

各作業の様子

- シンセラティ梱包作業



今月は依頼数が減ったため、売り上げは少ないものとなった。その中でも、ハサミセットの送料を安くするための梱包方法などを一緒に考え、対応する事が出来た。引き続き、相互を支え合える関係性を維持して取り組めるようにしていきたい。